

地域とつながり認知症と共に生きる

—専門看護師の実践—

齋藤 多恵子

日本医科大学千葉北総病院

超高齢社会に伴い、認知症をもつ人が身体疾患の治療のために入院する機会が増加している。当院は、大学病院内に設置された認知症疾患医療センターとして、地域の総合病院機能を担いながら、院内外で認知症の人の“暮らしをつなぐ”役割を果たしている。

院内では、音楽・回想・作業活動などを取り入れた非薬物療法的な院内デイケアを実施し、認知症をもつ高齢患者がせん妄やBPSDを発症せず、安心して治療に臨めるような支援の試みを開始している。

院外では、認知症疑いや、診断されていても適切な支援につながらないケースについて集中的に専門的な支援をし、行政や地域包括支援センターと協働して暮らしの安定を目指している。さらに、専門医療機関としての知識と技術を基盤に、本人・家族のみならず、地域の暮らしを支える医療介護福祉の専門職がいつでも相談できるような体制を整えている。

今後も、医療・介護・福祉が融合した支援体制のもと、「多職種協働」から「多職種共創」へと発展させ、地域に暮らす人々が老いることや認知症に対する不安や無関心を超えて、誰もが安心して暮らせる社会の創造に貢献していきたい。

【ご略歴】

2018年 千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程修了、老人看護専門看護師認定。

2024年 千葉大学大学院看護学研究科 博士後期課程修了、博士(看護学)。

現在、院内・院外の認知症をもつ高齢者とその家族のために地域の医療介護福祉専門職とともに活動している。